2019 年度 自己点検・評価報告書

学校法人 高木学園

福岡国際医療福祉大学

目　次

１．2019 年度自己点検・評価報告書の刊行に当たって・・・・・・・・・ 1
２．各学科等の自己点検・評価報告書
（１）理学療法学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
（２）作業療法学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
（３）視能訓練学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
（４）言語聴覚専攻科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
３．各委員会等の自己点検・評価報告書・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
４．資料
概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
学生生活調査報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
福岡国際医療福祉大学自己点検・評価委員会規程・・・・・・・・ 32
2019 年度自己点検・評価委員会委員名簿　・・・・・・・・・・・・ 33

付、自己点検・評価資料集 2019（ザ・フクオカ 2020）

１．2019 年度自己点検・評価報告書の刊行に当たって

2019年度自己点検・評価報告書の刊行に当たって

本学は2019年に新しく開学した福岡市で初めてとなるリハビリテーション専門職養成の大学です。大学の基本理念は、建学の精神である「生命の尊厳、生命の平等」を理解し、病める人も、障害を持つ人も、健常な人も、互いを認め合って暮らせる「共に生きる社会」の実現を目指すことであり、高度に専門・分化した医療に対応できるのみでなく、豊かな教養を備えたリーダーの育成とグローバルに活躍できる人材育成を目的として設立されました。

本学の前身である福岡国際医療福祉学院は、福岡市で約20年にわたり数千人の卒業生を輩出し、リハビリ医療の面で福岡県近郊のみならず全国的に社会に貢献してきました。加えて、本学では知識と経験豊富な教授陣による人間性涵養のための総合教育の充実、膨大な情報の増加に対してはＩＣＴを活用した教育、アドバイザー制を用いた少人数教育、グループの豊富な関連医療福祉施設を利用した実習の充実、英語Ⅰ、Ⅱ必修化や長期の海外研修を通じての国際性を養うための教育、卒業研究の必須化による先端的かつ考えるリハビリ医療教育等を目指して教育を行っています。

開学１年目の歩みをかいつまんで紹介いたします。本学には理学療法学科、作業療法学科、視能訓練学科で構成される医療学部があり、また大卒者を対象とした２年制の言語聴覚専攻科があります。医療学部の定員は120名です。選抜試験の方式は、ＡＯ入試、特別選抜、高校推薦、一般、センター利用であり、志願者318名、合格者164名、全体の競争倍率は1.93でした。

本資料をご覧いただくとおわかりのとおり、開学１年目ということもあり、教育・研究設備・備品は整備途上にありますが、当初から教育、研究その他に関する多くの活動が積極的に行われていることがわかります。

教育については、予定されていた年間の全ての講義を問題なく終了しました。学生支援面では各クラス２名の担任を配置し、また、学年を１グループ７～８名の少人数に分けアドバイザー担当教員によるきめ細かい指導を行いました。

学習以外、例えば運動会や文化祭なども盛況裡に終わりました。大学には３つの部と14のサークルがあり、これらの部やサークルに参加しているのは60%にとどまります。多くの学生が公共交通機関を利用して通学していることや、また、学生生活に関するアンケート結果では、アルバイトをしている学生

が 80%に上ること等から、部・サークル活動に割く時間的余裕がないものと思われます。学生がもっと余裕をもって学生生活を送るためにも寮などの整備や、その他の経済的な生活支援の必要性を感じます。さらには本学には運動場がなく、運動部の部・サークル活動を活発化するには大学近隣の広いスペースの確保が必要であると思われます。

研究については、開学１年目にも関わらず成果はあがっていると思われます。論文 44 編、学会発表 39 題、科学研究費を含む競争的外部資金の獲得は６件でありました。科学研究費に応募した教員の獲得状況は 70%に達し、全国平均の 28%程度に比べるとかなり高いと思われます。次年度は外部資金の獲得数をさらに増やし、また大型の科学研究費（基盤研究ＡやＢ等）の獲得を目指さなければならないと思っています。研究の国際交流の面では第２回アジアリハビリテーションフォーラムを本学主催で開催するなど、国際性の涵養に努めています。

地域社会への貢献は、大学の使命の一つであります。本学では公開講座を８回実施しました。各講座はそれぞれの学科が独自に工夫、企画して行っており、大学としての統一した取り組みが必要かもしれません。

運営面については、多くの委員会活動が行われました。委員会で検討された案件の中には予算の面で学校法人との協議が必要な案件があり、すぐには解決できない事案も多いのは事実ですが、委員会の審議決定事項の多くは管理運営委員会に報告、審議され大学運営は比較的速やかになされていると理解します。しかし、その実行・実施に予算を伴う案件は学校法人との協議が長期に及ぶこともあります。例えば、情報教育・教務委員会で議論になっているＬＭＳ（ラーニングマネジメントシステム）などは、今後のＩＣＴ教育の充実の観点からは重要な問題であり、早急かつ十分な検討を要すると思われます。

以上、開設初年度は順調に推移してきましたが、更なる発展を図るためには中期計画の策定が必要であります。2020 年度には夢と希望を持てる大学づくりのための中期計画策定委員会を設置し、５年後にはリハビリテーション系だけでなく全ての医療を包括した総合的医療系大学の構築を図りたいと思っています。

福岡国際医療福祉大学
学長　今泉　勉

２．各学科等の自己点検・評価報告書

２．各学科等の自己点検・評価報告書

（１）理学療法学科

１．2019 年度　自己点検・評価

１）教育面

2019 年の開学時より、新カリキュラムに沿った科目編成とし、卒業要件単位数 124 単位で授業を展開している。臨地実習は「基礎実習Ⅰ」「基礎実習Ⅱ」「検査測定実習」「評価実習」「臨床実習Ⅰ」「臨床実習Ⅱ」「地域理学療法学実習」で構成され、合計 22 単位 990 時間となっている。

２）研究面

2019 年度の研究業績は、英文筆頭論文 2 編、英文共著論文 3 編、和文共著論文 3 編、学会発表 7 演題であった。外部研究資金の獲得状況は、科学研究費若手研究（B）1 題、科学研究費基盤研究 2 題であった。さらに 2020 年度科学研究費基盤研究で 1 題の獲得が決定している。学内研究費の獲得では、2 題が採択された。

３）学生支援面

2019 年度は開学年度であり、学生は 1 年生のみであった。2 名のクラス担任をつけ学年運営を行った。前期初旬に、担任による全員の個別面談が実施された。学生を 6 つのアドバイザーグループに分け（1 グループ 8 名～9 名）、それぞれアドバイザー担当教員によるサポート体制を敷いた。アドバイザーグループの学生サポートとして、面談及び成績不良学生の指導を行った。

４）FD 活動

学科内 FD として、教育方法、教育工学に関する勉強会が開催された。この勉強会は学科外の教員にも開放され、若手教員を中心に活発な勉強会となった。

５）国際性

2019 年 11 月 19 日に「第 2 回アジアリハビリテーションフォーラム」を本学主催で開催した。韓国、中国をはじめとするアジアのリハビリテーション専門職が集い、基調講演や研究発表を通じて活発な交流の機会となった。準備委員長（理学療法学科長：柊幸伸）を中心に、学科教員は学会準備、運営に参画し、各国からの参加者とも有益な交流を深めることができた。

必修科目である「海外保健福祉事情Ⅱ（実習）」では、アジア各国で研修が予定されている。今後、同実習の運営及び学生の引率で今回の交流が活かされるものと期待する。

６）公開講座等

「第 2 回アジアリハビリテーションフォーラム」における公開講座の実施

●「アジアのリハビリテーションの原稿と今後」(5 講演)

●「高齢者のリハビリテーション」(3 講演)

７）今後の課題

開学年度であり新しい取り組みばかりであったため、混乱と統率に欠ける部分が多かった。完成年度までの学科運営のスケジュールを確立し、教員の役割分担とともに業務の効率化を図る必要がある。

２．2020 年度の計画（目標）

・実習計画を具体的にスケジュール化し、必要な病院・施設の確保

・アドバイザーグループの学年間の交流を活発にし、学習面、生活面でのサポート体制の充実

・定期的な学科 FD 活動の実施（月 1 回以上の FD 関連研修会の開催）

・2021 年度「全国リハビリテーション学校協会　教育研究大会」の開催に向けた準備

・授業・研究関連機器及び設備の充実

（２）作業療法学科

１．2019 年度　自己点検・評価

１）教育面

本学の基本理念・教育方針に基づき、「科学的・創造的探究心を持ち、作業療法の実践に必要な、基礎的及び専門的な知識・技術の学修」を作業療法学科のカリキュラム・ポリシーの一つとしている。これらを達成するために、カリキュラム内容・講義内容・臨地実習の方法論等の検討を行っている。

学生の在籍者数は、2020 年 3 月 31 日時点で 1 年生 44 名である。2019 年度の退学者は 0 名、除籍者 0 名、留年者 0 名であった。

２）研究面

学内研究費は、学科内応募者 1 名うち採択者 0 名であった。競争的資金は、科学研究費の継続 2 であった。

研究成果は、共著を含み、著書（1)、原著（9)、総説（2）であった。

３）学生支援面

2019 年度から、年 1～2 回の個別面接を行い、学生の生活状況や就学に関する意欲・習慣、メンタル面を把握するように努めている。さらに必要に応じて、定期的な個人面接や頻度を増やすなど、個々の学生の状況に合わせた対応を行っている。必要であれば保護者への連絡又は保護者面談を行っている。

また、アドバイザーグループ（AG）を 5 グループ編成し、それぞれに担当教員を配置した。すべてのグループに共通する活動目標について、2019 年度前期は「身近な作業療法士を知る」と設定し、グループ単位で学科教員に対するインタビューを行い、総括する発表会を行った。2019 年度後期は、共通する活動目標を「後輩へ伝えたいこと」と設定し、グループ単位でディスカッションを行った。これらの活動を通じ、学生における集団の凝集性を高め、キャリア意識の向上を図った。

４）FD 活動

学生指導における重要な要素であるアドバイザー制度や教授法を中心に、計 5 回実施した。

① アドバイザー制と担任制における教員の役割、活動報告におけるルーブリック評価（5/30、プロパー会議後、松田准教授）
② 学科における留年・退学の分析と取り組み（9/12、プロパー会議後、北島教授）
③ アドバイザー活動の行動目標（10/10、プロパー会議後、松田准教授）
④ PT・OT・ST 養成研修会伝達講習（12/12、プロパー会議後、中薗講師）
⑤ 客観的臨床能力試験　OSCE（1/16、プロパー会議後、吉田助教）

５）国際性

九州地区の国際交流・留学生支援体制を一元化して内容の充実を図ることを目的に、国

際医療福祉大学九州地区留学生サポートセンターが設置された。本学の代表者として作業療法学科教員がその体制に加わり、留学生案件について協力・対応することとなった。

本学の特長の一つで必須科目である海外保健福祉事情Ⅱ（海外研修プログラム）については、国際交流委員会（委員長；菅原教授、OT）の下、海外保健福祉事情Ⅰ（講義）を含めた計画が立てられた。しかし、コロナ禍による渡航制限を想定し、海外保健福祉事情Ⅰ（講義）のみの実施を検討している。

６）公開講座等

事務部と連携して 2019 年 8 月 17 日(土)に作業療法士セミナーを開催した。メインテーマは「生活を科学する！作業療法士の世界」。講演内容（講師）は、①生活を科学する作業療法士の活躍領域～ユニバーサルデザインから介護ロボットの研究・開発まで（北島栄二教授、OT、本学)、②こどもたちの未来を紡ぐ作業療法士～育ちの場、教育の場で求められる作業療法とは（日田勝子教授・学科長、OT、国際医療福祉大学)、③作業療法士の広がる活躍フィールド～今、話題のｅスポーツへのサポート（田中栄一氏、OT、日本作業療法士協会福祉用具対策委員会委員）であった。一般・臨床・学生を合わせて 100 名を超える参加があった。

７）今後の課題

アドバイザー制において、開学 1 年目で先輩後輩の関係が存在しないため、教員が深く関与する活動となった。そのため、学生主導の展開には至らず、担当教員においても本来の方針に沿いにくい運用が問題点として挙がった。今後、本来の運用方針を具体的に定め、それに沿った運用と展開を成すこと、加えて、活動成果の客観的な把握が今後の課題である。

２．2020 年度の計画（目標）

・アドバイザー制度における運用方針の具体・明確化
・アドバイザー制度を活用した生活・学修・キャリア支援
・アドバイザー制度活動成果の客観的な把握

（３）視能訓練学科

１．2019 年度　自己点検・評価

１）教育面

本年度開学した本学のカリキュラム・ポリシーに準じた授業を行い、前期試験、後期試験も行った。また、必要に応じて補講や自主学習会を開催し、サポート体制を強化することにより学修到達度を高めた。クラス委員と定期的に打合せを行い、教員と学生間の情報共有をすることで、円滑な学科運営を可能とした。家庭の諸事情で退学した 1 名を除き、全学生が必修科目の単位を落とすことなく 2 年生へ進級した。

２）研究面

本年度の業績として、著書 7 編、原著 15 編、総説 2 編、講演 5 件、学会発表 25 演題であった。学内研究費として一般研究 A が 1 件、臨床研究が 1 件採択され、2020 年度の学内研究費発表会で報告がなされる予定である。

３）学生支援面

アドバイザー担当教員が各学生に履修指導や学生生活の相談に乗り個別にサポートを行った。授業を複数回欠席した場合や、試験成績で問題のある学生に対して密に連絡を取り、状況を把握しながら問題が深刻化する前に対応するよう努めている。また、個別面談を積極的に実施し、一人一人に寄り添いながら学習面や学生生活のサポートを行っている。さらに、必要に応じて保護者と連絡を取りながら学生支援を行っている。

４）FD 活動

学科全体会議の日程に合わせてアドバイザー制に関しての FD を実施し、アドバイザー制の意義とその活動内容などについて各教員の理解を深めた。

５）国際性

2019 年度は海外研修の実施はなく、2020 年度はコロナウイルスの関係で延期が検討されている。

６）公開講座等

今年度 8 月 25 日と 9 月 21 日に視能訓練士セミナーを開催した。8 月 25 日は視能障害の未来を拓く―視能訓練士の役割―というテーマで開催し、国際医療福祉大学副学長：新井田孝裕先生、福岡市視覚障害者複視協会専務理事：明治博氏に講演していただき、多数の参加者を得た。本学の橋本勇希先生も講演に参加し、3 名で視覚障害者の今後の展望についてのディスカッションを行った。9 月 21 日は眼科治療とリハビリテーション―視能訓練士のこれから―というテーマで九州大学副学長：石橋達朗先生、日本視能訓練士協会福岡ブロック長：富士登謙司氏に講演頂き多数の参加者を得た。本学の吉冨健志学科長も講演に参加し、3 名で視能訓練士の今後の展望についてのディスカッションを行った。

７）今後の課題

今後 4 学年を同時に指導する場合には現状では教員のマンパワーが不足しており、人員を確保し、質の向上を図る。今後臨床実習が始まることもあり、本学関連病院だけでは実習先が不足しており、様々な実習病院との交流を促進し、実習の質向上を図る。国家試験合格率 100%を達成するために、学習面でのサポート体制を構築していく。次世代のリーダーの育成を目指すために、大学院の進学率を全国の視能訓練士養成校の中で最上位にする。そのために 3、4 年次に開講される卒業研究の指導強化に努める。また、外部研究費の獲得等による教員自身の研究活動の促進を図ることで、本学科のブランド力を高めていく。

２．2020 年度の計画（目標）

2020 年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、当初予定していた実技授業を実施することができない。そこで本学科では夏休みなどの期間を利用して実技特訓プログラムを開講する予定である。このプログラムでは前期に実施予定だった実技授業の検査について集中的に特訓することで、技術と知識の習得も目的とする。これにより、座学だけでは不足する学習到達度を高めるとともに、自ら実技を行うことで、学生自身の視能訓練士像がより明確にイメージでき、モチベーションを上げる効果が期待できる。

さらに、学科独自のイベントを数多く企画している。これにより、1 年生と 2 年生の縦と横の繋がりをつくり、学科の一体感を構築していきながら更なる円滑な学科運営を目指す。今後も学生ファーストのポリシーで積極的な取り組みを推し進めていく。

（４）言語聴覚専攻科

１．2019 年度　自己点検・評価

１）教育面

教育方針・目標は、豊かな人間性と科学的な思考力、専門的な知識と技術、専門職としての価値観を修得し、言語聴覚障害児者が抱える問題を的確に解決できる高度臨床実践能力を備えた言語聴覚士を 2 年で育成する。専門基礎科目と専門科目を関連する内容を継続して学べるよう配置しカリキュラムを作成した。2019 年 4 月 1 日の在籍者（1 期生）は 23 名である。

２）研究面

本年度の研究業績及び研究費申請、採択件数は以下のとおりであった。

教員数	学会発表	学内研究費採択数 （応募数）	外部研究費採択数 （応募数）	科学研究費 （代表・分担・継続）
4	6	1（2）	1（2）	3

学科として研究に力を注げる体制を整える必要がある。また、研究スタートにいる教員もいるため、研究の申請方法の研修が必要である。

３）学生支援面

アドバイザー制度を設け、定期的な個別面談を実施し、学習態度や心身の状況の把握に努め、学習支援を実施した。実態に応じて家族や保護者との連絡も実施した。

４）FD 活動

配慮の必要な学生がおり、心身症の理解や対応についての話し合いを頻繁に実施した。カウンセラーからの助言を聞く機会を設けた。学生が意欲的に取り組める演習方法について検討を行った。

５）国際性

海外保健福祉事情（選択教科）による海外研修を 5 名が希望したが、感染症の影響や家庭の都合で参加できなかった。教員は国際学会や大学院講義に積極的に参加し、研修してきた内容を学生に伝えるようにした。

６）公開講座等

公開講座を以下のとおり 4 回実施した。参加者は 30 名前後であった。

2019 年 7 月 7 日：言語聴覚士の可能性と広がる未来
（藤田郁代（国福大）、城間将江（国福大）、山下裕史朗（久留米大））

2019 年 11 月 2 日：学習障害児への配慮と支援（専攻科教員）

2020 年 1 月 25 日：難聴児のきこえの評価と学習の仕方（専攻科教員）

2020 年 2 月 29 日：ことばの育ちとことばを育てる学習（専攻科教員）

７）今後の課題

教育内容については、1 年次が終わったばかりで、2 年次の実習や国家試験対策など計画実施すべき内容がある。臨床実習施設の確保や事前指導を充実させる必要がある。国家試験対策としては、上級生がいないことで国家試験までの流れや学習イメージが希薄であるため、教員による細やかな指導が必要である。

２．2020 年度の計画（目標）

全学年がそろうため、上級生が下級生を対象とした検査演習や模擬症例の説明の演習を実施することで、1 年生には早い時期から実習についてのイメージを持たせる。入学直後の学習支援を個別に行う。2 年生に対して、実習、就職活動、国家試験対策についての指導を個々の学生の実態に合わせて実施する。そのために、大学の各種委員会とも連携し、システム作成に専攻科意見を反映させる。

教員に対しては研究や研修活動にも力を尽くせるよう体制を整える。

国家試験対策予定

	内容	模試
（３月）	既習科目の復習・補習	校内模試①②③
４月	既習科目の復習・補習	校内模試④
５月	既習科目の復習・補習	校内模試⑤
６月	既習科目の復習・補習	校内模試⑥
７月	既習科目の復習・補習	校内模試⑦
８～１１月	学外実習	
１２月	国試験対策講座・校内模試⑧⑨⑩・一般模試	
１月	卒試①②③	
２月	国家試験	

就職対策予定

	1 年	2 年
４月	病院・施設見学	就職説明会（予定・履歴書の書き方）
５月		
６月		
７月		就職エントリー開始・グループ施設就職説明会
８月～１２月		就職活動
２月		就職活動
３月	病院見学	就職活動

３．各委員会等の自己点検・評価報告書

３．各委員会等の自己点検・評価報告書

①　教務（FD）委員会　　委員長：北島　栄二（OT）

1. Did 実行：2019 年度事業報告（決定事項、作業など）
  1.1　教育課程及びその内容・方法の点検・評価
    1.1.1　講義評価アンケートの検討（項目、WEB 実施）
    1.1.2　成績データの分析（年間累積 GPA を学部・専攻毎に入試区分等で集計）
  1.2　定期試験の管理
    1.2.1　スケジュールの調整（定期試験・追試験）
    1.2.2　次年度再履修取り扱いの検討（再履修願の様式と手続きの流れ）
  1.3　教育を行うための措置と授業形態・方法
    1.3.1　シラバス内容の検討（オフィスアワー）
    1.3.2　解剖学実習（7/9、佐賀大学）
    1.3.3　ICT 教育環境の整備（コロナ禍の Zoom 活用）
  1.4　成績評価、単位認定及び学位授与
    1.4.1　言語聴覚専攻科（進級判定、既修得単位の認定、卒業判定要件の整理）
    1.4.2　アセスメント・ポリシーの策定

2. Check:評価：今後の課題（懸案事項）、問題点の整理

事項	自己評価［4 段階、A-D］と今後の課題（問題点）
1.1	1.1.1［C］；WEB 実施で回収率が低く、結果は教員個人への通知に留まった。 1.1.2［C］；活用は後ろ向き的な動態把握のみで、退学・留年の防止にはつながらない。
1.2	1.2.1［A］；問題は生じなかった。 1.2.2［B］；様式は定まったが、その手続きの実施は次年度とする。
1.3	1.3.1［A］；すべての教員に徹底できた。 1.3.2［A］；問題は生じなかった。 1.3.3［B］；迅速な導入で学年暦に変更はなかったが、ICT ツールを活用した教育の質の向上が課題
1.4	1.4.1［A］；問題は生じなかった。 1.4.2［D］；十分な議論がおこなえず、策定に至らなかった。

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案
  1.1　1.1.1　最終講義時間に実施
      1.1.2　留年・退学者を予測する前向き的活用
  1.2　1.2.2　科目担当教員へ手続きを周知徹底
  1.3　1.3.3　ICT 委員会・FD 委員会と連携して ICT リテラシー（技術、情報倫理等）の向上を図る。
  1.4　1.4.2　姉妹校の国際医療福祉大学のアセスメント・ポリシーを参考にして策定する。

4. Plan 計画：2020 年度の目標と事業計画
  1.1　教育課程及びその内容・方法の適切性における定期的な点検・評価
    1.1.1　回収率 100％と適切性評価
    1.1.2　留年・退学者の予測モデル検討（IR、Institutional Research）
  1.2　定期試験の適切な管理

1.2.2　手続きの適切な実施（担当科目教員と学生へ手続きの周知徹底）
1.3　効果的に教育を行うための措置と学習成果に応じた授業形態・方法の採用
1.3.3　ICT 委員会・FD 委員会と連携した ICT リテラシー研修の実施
1.4　成績評価、単位認定及び学位授与の適切な実施
1.4.2　機関レベル（大学）・教育課程レベル（学部・学科）・科目レベル（授業科目）の 3 段階で策定

②　学生委員会　　委員長：北島　栄二（OT）

1. Did 実行：2019 年度事業報告（決定事項、作業など）
1.1　学生支援体制の整備と点検・評価
1.1.1　学生アンケートの検討と実施(回収率 75%)、改善へ向けた取り組み(管理運営委員会へ)
1.1.2　保護者懇談会の企画・実施（11/2、全体会、各学科にて懇談会・個別面談）とアンケート
1.2　学生の修学に関する支援の実施
1.2.1　新入生オリエンテーションの企画・実施（学部・専攻科の合同開催、基礎学力試験実施）
1.2.2　高等教育の就学支援制度案内（在校生と次年度入学予定者へ案内）
1.3　学生の生活に関する支援の実施
1.3.1　学部・専攻における個人面談の把握（時期、面談基準）
1.3.2　体調不良者への対応整理（医療機関連携の確認、インフルエンザ対応、COVID-19 感染予防対策）
1.4　学生の正課外活動（部活動等）の支援の実施
1.4.1　部・サークルの促進（申請要件の緩和）
1.4.2　学友会・大学祭運営の支援（教員顧問、事務補助）

2. Check:評価：今後の課題（懸案事項）、問題点の整理

事項	自己評価［4 段階、A-D］と今後の課題（問題点）
1.1	1.1.1［B］；学生の改善要望に対し、大学が行う改善対策の方針を順次公開できた。 1.1.2［B］；懇談会・個別面談のすべてについて、概ね好評な回答であった。
1.2	1.2.1［D］；基礎学力試験の実施時間が不適切（150 分が適）であった。 1.2.2［A］；問題なし。
1.3	1.3.1［A］；個人面談の状況が把握できた。 1.3.2［A］；担任・事務の役割分担並びに連携する医療機関、インフル罹患者休校対応の整理、COVID-19 感染予防対策が迅速に行えた。
1.4	1.4.1［A］；部（5）・サークル（9）が設立した。 1.4.2［C］；教員・事務職員ともに負担が大きかった。

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案
1.1　1.1.1　建物・敷地に関する課題は未着手（学生食堂改善と公開空地の備品整備など）
1.1.2　適切な開催時期・内容の検討（例：入学式では全体会と各学科の懇談会、大学祭は個別面談など）
1.2　1.2.1　基礎学力試験の実施時間を適切に設定（否 90 分，適 150 分）
1.3　1.3.2　COVID-19 感染予防対策の徹底を図る。
1.4　1.4.2　学生主体の活動となるような促進を図る。

4. Plan 計画：2020 年度の目標と事業計画

1.1　学生支援体制の適切な整備と適切性についての定期的な点検・評価並びに改善・向上への取り組み

1.1.1　定期的なアンケート実施（回収率 100%）と結果に対する改善策の検討

1.2　学生の修学に関する適切な支援の実施

1.2.1　基礎学力試験の適切な実施（150 分）

1.2.2　新たな修学支援制度等の積極的な周知

1.3　学生の生活に関する適切な支援の実施

1.3.1　個人面談の定期的な実施

1.3.2　学校保健安全法上の適切な対応（インフルエンザ、COVID-19）

1.4　学生の正課外活動（部活動等）を充実させるための支援の実施

1.4.1　部・サークル活動充実のためのアンケート実施

1.4.2　教員・事務職員の関与を段階的に調整する。

③　図書委員会　　委員長：森　望（ORT）

1. Did 実行：2019 年度事業報告（決定事項、作業など）について

・大学設置準備図書（予定額 ¥6,116,494　実績 ¥5,282,153　未納品分 ¥834,341）の内未納品分代替図書の選書をした。（2020 年度納品予定だが、新型コロナの影響で納入が遅れている。）

・定期購読物次年度更新タイトルを精査し、雑誌については継続・追加を決定した。（雑誌¥3,239,961、電子ジャーナル等¥3,132,810）

・電子ジャーナル等の増設希望分について優先順位を検討し計上（見積総額¥10,657,411）

・私立大学図書館協会へ加盟した。

2. Check:評価：今後の課題（懸案事項）、問題点の整理について

移管に伴い福岡看護学部図書館と連携が必須であり、2020 年度中に準備が必要

①国際医療福祉大学、福岡山王病院等に端末を設置し、教員の研究支援のため電子ジャーナル等の利用が可能になるよう整備する必要がある。（IUHW 大田原キャンパス、成田キャンパスに準じるレベルでの整備が望ましいと考えている。）

②看護関連図書の移動(図書 1,754 冊、視聴覚 533 冊、雑誌 38 種類）について本学から大川看護福祉専門学校へ、7 月末までに移動の方針を決定する。

③大学ＨＰ内の図書館ページ設定･OPAC（図書館システム「情報館」）の設定予定。本学と福岡看護学部の 2 つの図書館を融合した形で内容をまとめていく。完全な融合でなくとも、連帯した利用が可能になるよう、簡便かつ実質的な早期利用が可能となるシステムの構築をめざす。

④国立情報学研究所目録所在サービス（NACSIS）へ加入することにより、現在福岡看護学部に依頼している相互貸借サービス及び総合目録データベースを本学図書館での直接利用が可能となるよう整備する。

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案について

上記 ①福岡看護学部 1・2 号館と福岡山王病院でのグループ内利用（9 月）

上記 ②大川看護福祉専門学校、福岡看護学部にリスト確認依頼（7 月）、一部移管予定（12 月末予定）

上記 ③福岡国際医療福祉大学図書館と福岡看護学部図書館を利用しやすいように融合する。
（3 月末までに整備予定）

上記 ④ソフト導入稟議･決裁、参加申請済み。(導入費用¥594,000、サポート料年 1 回¥100,000)

4. Plan 計画：2020 年度の目標と事業計画について

(1) 電子ジャーナル等について

本学の電子ジャーナル等の閲覧について、研究支援のため福岡看護学部と同等レベルにする。

(2) 図書館利用者への対応

希望者（特に新入生）に対して、図書館オリエンテーションを実施する。(7 月末予定)

(3) 新型コロナ対策

新型コロナ対策により、閲覧席の数を減らし（本来 114 席のところ 27 席としている)、利用は短時間・少人数など制限して開館している。終日対面授業開始後の利用状況により、試験期間の利用者増加に備えて対応を適時見直す。(また、対策の一環として電子ジャーナル等の無料トライアルの検討を行う予定だが、これについては学部生へのメリットはない。)

(4) 福岡看護学部移管について

福岡看護学部移管に向けて両図書館における合理的な調整が必要であり、2021 年 4 月移管後の新体制をどうするかについても、福岡看護学部図書館と緻密な協議が必要と考えている。連携へ向けて事務部の支援をお願いしたい。

④ 臨床教育実習委員会　　委員長：柊　幸伸（PT）

1. Did 実行：2019 年度事業報告（決定事項、作業など）

「基礎実習」SV 会議：2019.8.1（木）高木病院にて開催

「基礎実習」理学療法学科・作業療法学科

：学内実習 4 日、施設実習 2 日「基礎実習Ⅰ」2019.9.17～18、19～20

「基礎実習Ⅱ」2020.2.25～26、27～28

実習に際し、インフルエンザ予防接種の確認と接種指導

2. Check:評価：今後の課題（懸案事項)、問題点の整理

コロナ感染症対策による各種実習への影響

・作業療法学科「地域作業療法実習」の実習形態の変更

・新規実習施設開拓の遅れ

・言語聴覚専攻科「臨床実習」、実習遂行不可施設への対応

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案

実習施設の確保

・2020 年度以降の実習に対する受け入れ施設の確認

・新規実習施設の開拓

・実習施設確保のための予算シミュレーション

実習内容の再検討

・VOD の活用、学生配置人数の再検討

4. Plan 計画：2020 年度の目標と事業計画

実習施設の確保（PT、OT、ORT）

・関連施設での学生受け入れ人数を確定し、不足分を協力施設で確保

・実習施設への公文書発行（受け入れ確定）

「臨床実習」の実施（ST）

実習経費の予算化

・実習先開拓費用
・実習遂行のための予算（教員の訪問費用、学生送迎バス等）

⑤　倫理審査委員会　　委員長：吉冨　健志（ORT）

1. Did 実行：2019 年度事業報告（決定事項、作業など）
本年度は、2019 年 8 月 28 日と 10 月 29 日に研究倫理（医系）研修を行った。本学専任教員の中で、研究を行う際に倫理審査が必要な研究者（共同研究者を含む）を対象とし、同時に研究倫理・コンプライアンス研修も実施した。最終的に対象者はすべて受講が完了した。倫理審査委員会は、9 月 4 日の第 1 回倫理審査委員会で 1 件の倫理審査、11 月 6 日の第 2 回倫理審査委員会で 1 件の倫理審査、2 月 5 日の第 3 回倫理審査委員会で 2 件の倫理審査を行い、最終的にすべて承認された。

2. Check:評価：今後の課題（懸案事項）、問題点の整理
2019 年度は本学初年度だったこともあり、倫理審査が必要な研究体制の構築にも時間がかかり、研究倫理研修が 8 月 28 日に初めて開催された。その後の倫理審査委員会も毎月 1 回の開催予定であったが、申請がない月は会議が中止となり、本年度は 3 回しか開催されなかった。
倫理審査は本年度 4 件のみであり、非常に少なかった。

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案
倫理審査が少なかった要因は 2019 年度が開学初年度で、研究体制構築が遅れていたこともあると思われ、2020 年度以降は申請の数が増加してくると考えられる。申請された研究については 2019 年度に申請されたものはいずれも倫理審査委員会でいくつかの問題も指摘されたが、大きな問題はなく、最終的に承認されたので、2020 年度も研究内容について厳密に審議していく予定である。

4. Plan 計画：2020 年度の目標と事業計画
2020 年度も新任教員のために研究倫理（医系）研修と研究倫理・コンプライアンス研修を実施する。倫理審査委員会も前年度よりは多く開催できるように努める。

⑥　地域連携推進室・ボランティア委員会　　委員長：平島　ユイ子（ST）

1. Did 実行：2019 年度事業報告（決定事項、作業など）
本学に依頼のあったボランティア活動を web を使い学生に知らせる。ボランティア活動カードを作成し、活動実績を学生が確認できるようにした。学生のボランティア活動への参加を啓発するためにボランティア表彰（学生 2 名）を実施した。

2. Check:評価：今後の課題（懸案事項）、問題点の整理
ボランティアについては、本学が開学したばかりなので、現状では旧学院へ依頼されていたものがほとんどであり、ボランティアの依頼方法が地域に知られていない。ボランティアセンター（仮）を設置し、地域からボランティア要請を受けやすいようにする。
地域連携を強めるために、ボランティア以外の活動も必要である。

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案

ボランティアセンター（仮）を設置し、地域からボランティア要請を受けやすいようにする。教員からボランティアの意義などを学生に伝えていく。学生がボランティアに参加しやすいよう参加届を簡略化しつつも安全性を確保できる書式を検討する。

地域連携センター（仮）を設置し、ボランティア以外の地域からの要請（例えば研修講師など）についても応えていけるようにする。

4. Plan 計画：2020 年度の目標と事業計画

①ボランティアについて

ボランティア活動の依頼は、掲示及び web で学生に知らせる。新入生には、参加までの手続きを知らせる。

6 月の百道浜の清掃に多くの学生、教員が参加するよう啓発する。

ボランティア表彰を引き続き行う（6 月運動会と 10 月大学祭の時に行う）。

②地域連携について

地域に向けた講演会を実施したり、通常講義に地域の方が参加したりできるような公開講義日を設ける。

⑦　産学・医工連携推進室　　室長：北島　栄二（OT）

1. Did 実行：2019 年度事業報告（決定事項、作業など）

産学・医工連携のための方針策定：活動なし

産学・医工連携のための基盤整備：活動なし

共同研究・受託研究の推進：活動なし

2. Check:評価：今後の課題（懸案事項）、問題点の整理

事項	自己評価［4 段階，A-D］と今後の課題（問題点）
1.1	［評価なし］；活動なし
1.2	［評価なし］；活動なし
1.3	［評価なし］；活動なし

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案

方針策定のための情報収集

福岡県における既存の知的ネットワークに関する情報収集、法的枠組みの整理

本学の研究シーズの整理と共同研究・受託研究推進のためのルール策定

4. Plan 計画：2020 年度の目標と事業計画

産学・医工連携のための方針策定

・産学・医工連携ポリシーの策定（国際医療福祉大学の内容を参考）

産学・医工連携のための基盤整備

・知的ネットワークの形成（他大学、企業及び自治体）

利益相反・責務相反への対応等の整理

・知的財産権等研究成果の取扱いの整理

・未来研究センター（国際医療福祉大学）との連携

共同研究・受託研究の推進
・研究シーズのデータベース構築（研究シーズ集）
・研究シーズのデータベース公開
・共同研究・受託研究のルール策定

⑧　研究推進委員会　　委員長：吉冨　健志（ORT）

1. Did 実行：2019 年度事業報告（決定事項、作業など）

本年度は、2019 年 5 月 29 日に第 1 回の委員会が開催され、7 月 3 日、10 月 2 日、12 月 4 日、2 月 5 日、3 月 25 日に計 6 回の委員会を開催した。2019 年度は本学初年度だったこともあり、学内研究環境の整備について多くの時間を費やしてまとめてきた。学内研究費公募を行い、7 件の申請、5 件の採択を確認した。また、学内研究会を 10 月 30 日、11 月 20 日、12 月 18 日、2 月 19 日に開催し、それぞれの学科長が発表した。統計ソフトの導入について協議され、全学科で共有できるシステムを構築した。

2. Check:評価：今後の課題（懸案事項）、問題点の整理

本年度は開学初年度で、新しい教員の研究設備を大学のどのスペースに収納して研究を継続していくかについて事務部とも話し合いを行い、体制を構築していった。また、学科をまたいだ研究を推進するためにも各学科でどのような研究を行っているかを本年度より規模を大きくした学内研究会で発表して情報を共有していくことが必要と思われる。今後学内研究会をどのように開催していくかについて検討していく必要がある。

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案

共同研究室は、2020 年度の新任教授関連の研究設備などが搬入でき、今後の研究の進展が期待される。学内研究会に関しては 2019 年度は 4 回のみで、各学科長が研究について発表しただけであった。今後は学内研究会を FD として開催すること、国際医療福祉大学学会への参加なども検討する。

4. Plan 計画：2020 年度の目標と事業計画

2020 年度の学内研究会の開催時期や実施方法等については、「実施要領」を決定したが、コロナ感染拡大の現況を鑑みて再検討する提案がなされ、継続審議することとなった。「学内研究費採択者報告会」については、2020 年度から国際医療福祉大学学会へ本学教員全員参加となる予定であり、そうなれば学会で報告することとなるため、事務部で事実確認して検討する予定である。

⑨　学生募集委員会　　委員長：柊　幸伸（PT）

1. Did 実行：2019 年度事業報告（決定事項、作業など）

2019 年 6 月 28 日	高校教員対象大学説明会
2019 年 7 月 20 日	オープンキャンパス
2019 年 7 月 28 日	オープンキャンパス
2019 年 8 月 4 日	オープンキャンパス
2019 年 8 月 25 日	オープンキャンパス

2019年9月14日　　AO入試
2019年11月9日　　高校推薦入試
2019年12月14日　　オープンキャンパス
2020年1月18，19日　　センター入試
2020年2月1日　　一般入試前期A日程
2020年2月2日　　一般入試前期B日程
2020年3月3日　　一般入試後期日程
その他：進学ガイダンス・高校内ガイダンス・大学見学会・地方大学説明会等

2. Check:評価：今後の課題（懸案事項)、問題点の整理
オープンキャンパス運営予算
・消耗品等購入予算の不足、学生協力に対する予算不足
・大学HPの充実を図り、タイムリーな更新をめざす

3. Action改善：課題、問題点の具体的な改善案
オープンキャンパス全体の運営管理：予算、動員
HP上の動画コンテンツの充実
・学内製作ビデオの計画進行
・業者への発注ビデオの選定
・委員によるHPのこまめなチェック

4. Plan計画：2020年度の目標と事業計画
大学紹介動画の作成、HPへのアップ
教員による高校訪問同行数のアップ
高校での出前講義、大学説明講義の充実
看護学部との学生募集活動協力：行事、ツールの統一

⑩　ハラスメント防止委員会　　委員長：平島　ユイ子（ST）

1. Did実行：2019年度事業報告（決定事項、作業など）
ハラスメントの学内規約を学生生活の手引きに掲載した。ハラスメントについての理解を進めるためにパンフレットを作成し、学生、教職員に配布した。相談員を各科1名と事務職員1名の計5名を選定し公示した。各科で学生向けにハラスメントに関する相談すべき事象について説明した。教員向けのハラスメント研修会を実施した。
ハラスメントに関する相談があった時の対応手順について作成した。
ハラスメントに相当する事象、相談はなかった。

2. Check:評価：今後の課題（懸案事項)、問題点の整理
教職員についてハラスメントに関する十分な研修機会が持てなかった。面談や指導する環境についてハラスメント防止の観点が必要である。
学生についてハラスメントについての理解を進める必要がある。

3. Action改善：課題、問題点の具体的な改善案
教職員向けの専門家を講師としたハラスメント研修会を設ける。

学生のハラスメントの意識を高めるため、ハラスメント防止ポスターやステッカーを募集する。

4. Plan 計画：2020 年度の目標と事業計画
教職員向け研修会を前期期間中に実施する。
ハラスメント防止の観点から面談室が見えるようにドアストッパーを常備する。
学生、教職員に対してハラスメント防止のためのパンフレットを 4 月に配布する。学生に対してハラスメント防止ポスターやステッカーを公募し、ポスターやステッカーを作成する。
ハラスメントに関する相談に対応する。実態に応じて調査委員会を設立する。

⑪ 情報教育（ICT）委員会　　委員長：橋本　勇希（ORT）

1. Did 実行：2019 年度事業報告（決定事項、作業など）
2020 年度の前期開講日（4 月 6 日）に向けた Zoom を用いたオンライン授業の導入

2. Check:評価：今後の課題（懸案事項）、問題点の整理
対面授業とオンライン授業が並行して実施していく中での運用及び活用方法
ICT を用いた定期試験の実施方法

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案
様々なツールを用いた対策方法と情報提供を目的とした教員向け説明会の頻回実施

4. Plan 計画：2020 年度の目標と事業計画
Learning management system（LMS）の現状把握とその展望

⑫ 国際交流委員会　　委員長：菅原　洋子（OT）

1. Did 実行：2019 年度事業報告（決定事項、作業など）
①海外研修を国際医療福祉大学の協力の下に一期生が 2 年時（2020 年度）に実施する予定であることと、実施方法や教員の役割について説明した。
②2020 年度の海外研修のために、今年度実施予定について説明した。
③2019 年度に ST 学科の学生の海外研修参加を実施するまでの手順を説明した。
④2021 年度海外研修先の国を増やすため、mに許可をとる。
⑤本学を会場として行われるアジアリハビリテーションフォーラム開催に協力した。
⑥2020 年度海外保健福祉事情のカリキュラム案の承認を得た。
⑦2020 年度海外研修のために学生の希望国調査を行い、学生の訪問国の最終決定をした。
⑧海外研修の健康管理担当者と引率教員を決定した。
⑨台湾、ベトナムの海外研修先との締結を結んだことを報告した。
⑩留学生の支援は国際医療福祉大学の留学生サポートセンターと協力していくことが承認された。

2. Check:評価：今後の課題（懸案事項）、問題点の整理
①海外研修先の学生希望が全員について叶わなかった場合の研修先決定の方法は今後も審議する必要がある。

②コロナ感染予防のために海外研修が中止になる可能性がある。

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案
①学生の研修先決定の方法については、海外研修後の学生のアンケートなどを参考に検討していく。
②コロナ感染のために海外研修が中止になった際の代替え措置を検討する。

4. Plan 計画：2020 年度の目標と事業計画について
①初めての海外研修実施なので、引率する教員の方々に不安がないように説明する。
②学生は海外研修の準備を十分にできるように資料や文献を揃える。
③海外研修実施後に的確なアンケートを取り、本学の海外研修の改善のために分析する。
④コロナにより研修中止の場合は、海外保健福祉事情Ⅱのカリキュラムを作成する。

⑬ FD 委員会　　委員長：丸山　仁司（副学長）

1. Did 実行：2019 年度事業報告（決定事項、作業など）
1)2019 年度：教務委員会の中で FD 小委員会として実施
2)FD 研修会の実施内容

テーマ	講師	開催日	主催
教員説明会	事務局	6月26日	事務局
研究倫理研修会	学長・DVD	8月28日	研究協力室
公的研究費セミナー	学長・DVD	9月12日	研究協力室
コンプライアンス研修	学長・DVD	10月9日	研究協力室
ヘッドマウント型視野計アイモ	吉冨健志	10月30日	研究推進委員会
モーションセンサーの特性・動作分析	柊　幸伸	11月20日	研究推進委員会
階段昇降を支援する電動手すりの開発	北島栄二	12月18日	研究推進委員会
ハラスメント講習会	平島ユイ子	2月12日	ﾊﾗｽﾒﾝﾄ防止委員会
	平島ユイ子	2月19日	研究推進委員会

3)2020 年度 FD 研修会の企画
2020 年度 FD 研修会を 4 回実施、good teaching 賞を企画
4)授業評価表の確認

2. Check:評価：今後の課題（懸案事項）、問題点の整理
2019 年度に実施した研修会は FD 委員会の主催ではない
授業アンケートの調査回収率が低い
他の委員会及び事務組織との連携
他大学との FD 連携の検討が必要

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案
FD 研修の体系化づくりと内容の検討
授業評価アンケートの回収率の改善

4. Plan 計画：2020 年度の目標と事業計画
FD 委員会企画研修会を年 4 回実施
他委員会と連携して FD を実施：研究推進委員会、ICT 委員会など
他大学との連携した FD：国際医療福祉大学大学院教育管理分野 FD と連携
Good teaching 賞の検討
授業評価表の検討及び回収率の改善（最終授業時に時間を設定して実施）

⑭ 自己点検・評価委員会　　委員長：今泉　勉（学長）

1. Did 実行：2019 年度事業報告（決定事項、作業など）
本年度は、2020 年 3 月 18 日に第 1 回の委員会が開催
今後の自己点検・評価の方法、計画を検討：
各年に、自己点検・評価委員会にて資料集を作成：資料集の校正
各科、委員会より、PDCA サイクルに則った報告書を作成依頼

2. Check:評価：今後の課題（懸案事項）、問題点の整理
2019 年度版自己点検・評価資料集を完成し、この資料に基づいて検討
資料集の検討：広報など

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案
各科、委員会より資料収集と内容の検討
各科、委員会報告から、内部検証委員会（仮）等へ報告

4. Plan 計画：2020 年度の目標と事業計画
2019 年度自己点検・評価報告書を作成（簡易版）
2020 年度に向けて、自己点検・評価資料集作成とそのための情報収集

４．資　料

概　況

福岡国際医療福祉大学　概況

(1) 学部・学科等

福岡国際医療福祉大学	医療学部（4 年課程）	理学療法学科
		作業療法学科
		視能訓練学科
	言語聴覚専攻科（2 年課程）	

(2) 学部・学科等の学生数　(2020 年 3 月 31 日現在)

学校名		入学定員	収容定員	在籍学生数
医療学部	理学療法学科	40	160	47
	作業療法学科	40	160	47
	視能訓練学科	40	160	39
言語聴覚専攻科		40	80	21
	合計	160	560	154

(3) 異動者数　(2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日)

学校名		休学者	退学者	除籍者
医療学部	理学療法学科	0	2	0
	作業療法学科	0	0	0
	視能訓練学科	0	0	1
言語聴覚専攻科		1	2	0
	合計	1	4	1

(4) 教員数　(2020 年 3 月 31 日現在)

学校名		教授	准教授	講師	助教	合計
医療学部	理学療法学科	5	1	2	1	9
	作業療法学科	4	1	2	0	7
	視能訓練学科	3	2	1	3	9
言語聴覚専攻科		1	0	0	3	4
	合計	13	4	5	7	29

(5) 職員数　(2020 年 3 月 31 日現在)

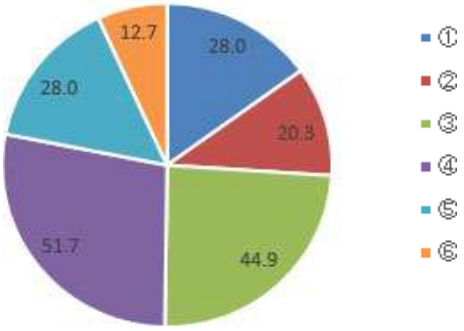
事務系	その他	計
17	2	19

学生生活調査報告

2019年度　学生生活アンケート　集計結果

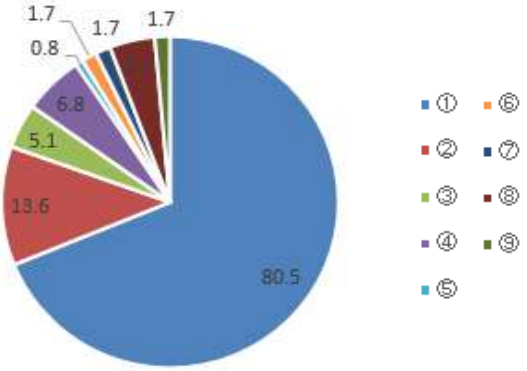
問1　通学に利用している交通手段を選んでください。（全回答数：118/157）　※グラフ中の単位は%

①地下鉄	33
②JR	24
③バス	53
④自転車	61
⑤徒歩	33
⑥その他 ・新幹線 ・自動車	15



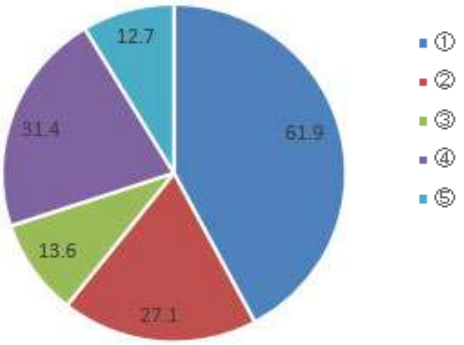
問2　現在住んでいる地域のどのような活動に参加していますか。（全回答数：118/157）

①参加していない	95
②お祭りやイベント	16
③スポーツ・レクリエーション活動	6
④地域の清掃・防災活動	8
⑤高齢者・障害者への支援活動	1
⑥自然環境保護活動	2
⑦趣味や文化系サークル活動	2
⑧募金・献血活動	6
⑨その他	2



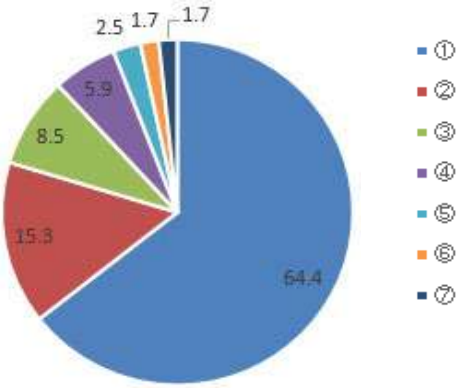
問3　大学周辺地域は、現状よりも何が必要だと思いますか。（全回答数：118/157）

①文化・娯楽のための施設	73
②学習支援のための施設	32
③就職先として有用な病院・施設	16
④利便性の高い公共交通機関網	37
⑤その他 ・グラウンド ・コンビニ　・カフェ ・売店　・飲食店 ・自然　・部室 ・大学のキャンパス ・今のままでよい	15



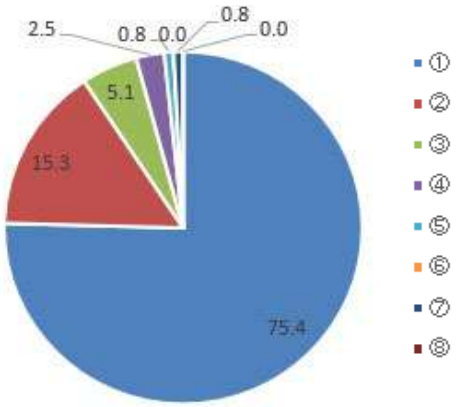
問4　あなたの、１ヶ月の生活費（住居費・光熱費・食費・交通費等）はおよそいくらですか。
（全回答数：118/157）

①60,000円以下	76
②60,001～80,000円	18
③80,001～100,000円	10
④100,001～120,000円	7
⑤120,001～140,000円	3
⑥140,001～160,000円	2
⑦160,001円以上	2



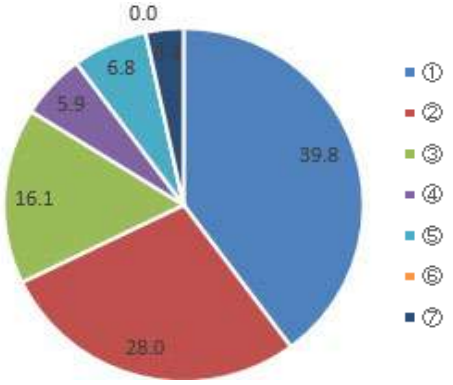
問5　毎月の仕送り金額はおよそいくらですか。（全回答数：118/157）

①0円（仕送りなし）	89
②40,000円以下	18
③40,001～60,000円	6
④60,001～80,000円	3
⑤80,001～100,000円	1
⑥100,001～120,000円	0
⑦120,001～140,000円	1
⑧140,001円以上	0



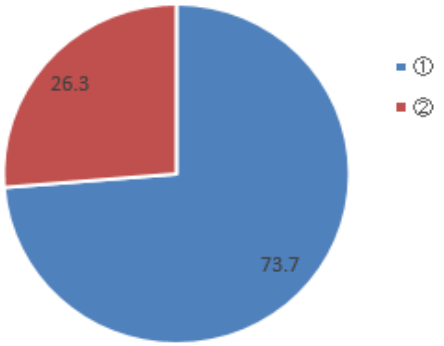
問6　あなたの1ヶ月の収入（仕送り・小遣い・アルバイト代・奨学金等）はおよそいくらですか。
（全回答数：118/157）

①40,000円以下	47
②40,001～60,000円	33
③60,001～80,000円	19
④80,001～100,000円	7
⑤100,001～120,000円	8
⑥120,001～140,000円	0
⑦140,001円以上	4



問7　あなたはアルバイトをしていますか。（「①はい」の方はアルバイト内容もお答えください）
（全回答数：118/157）

①はい	87
②いいえ	31
①アルバイトの内容 ・飲食店（ホール・キッチン） ・コンビニ等販売業 ・スポーツ関係 ・イベントスタッフ ・テーマパーク ・塾講師・家庭教師 ・保育施設・放課後デイサービス ・ホテル　・清掃	



問8　朝食は食べていますか。（全回答数：118/157）

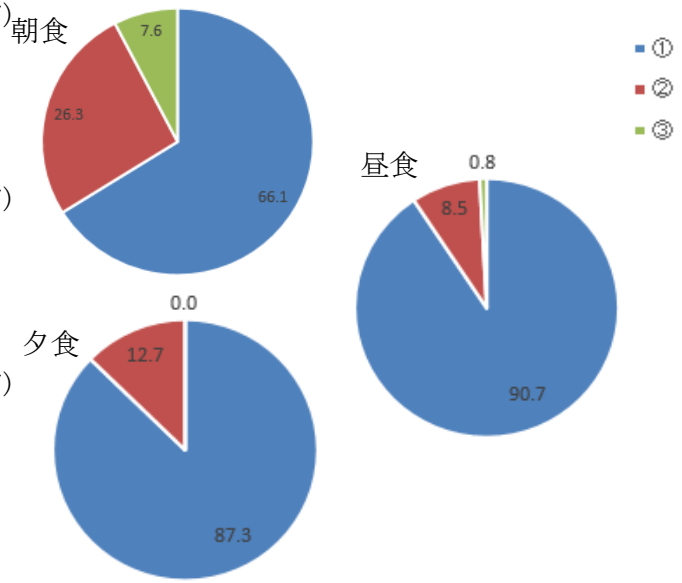
①毎日食べる	78
②時々食べる	31
③食べていない	9

問9　昼食は食べていますか。（全回答数：118/157）

①毎日食べる	107
②時々食べる	10
③食べていない	1

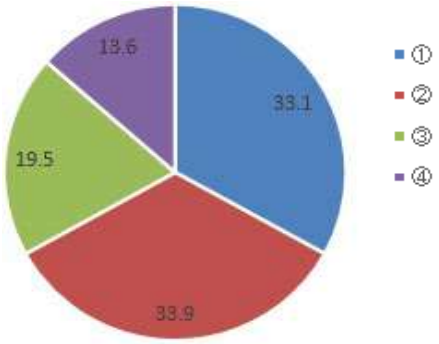
問10　夕食は食べていますか。（全回答数：118/157）

①毎日食べる	103
②時々食べる	15
③食べていない	0



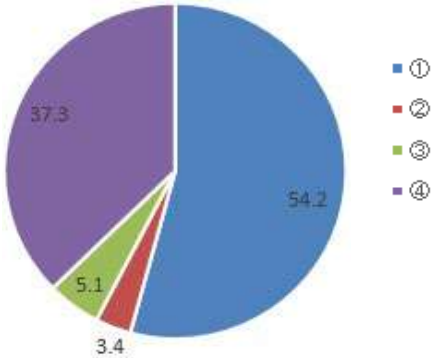
問11　本学以外の学生と交流はありますか。（全回答数：118/157）

①よくある	39
②たまにある	40
③ほとんどない	23
④まったくない	16



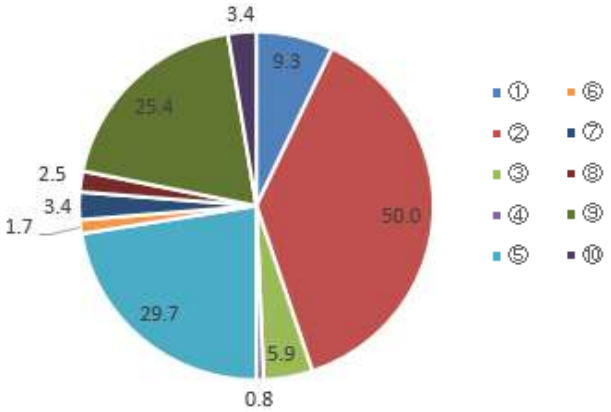
問12　学内・学外の部・サークル活動に参加していますか。（全回答数：118/157）

①学内の部・サークル活動に参加	64
②学外の部・サークル活動に参加	4
③双方に参加	6
④どちらにも参加していない	44



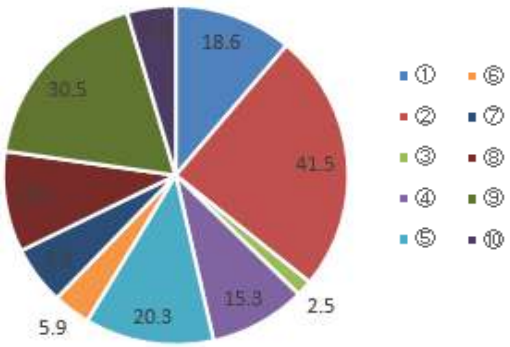
問13　部・サークル活動で何を得たと思いますか。（全回答数：118/157）

①授業では得られない知識・教養・技能	11
②友人	59
③忍耐力・責任感	7
④自己を知るきっかけ	1
⑤趣味・興味の満足	35
⑥リーダーシップの養成	2
⑦集団意識・連帯感	4
⑧先輩後輩との人間関係	3
⑨参加していないのでわからない	30
⑩その他 ・まだ活動していない ・体力	4



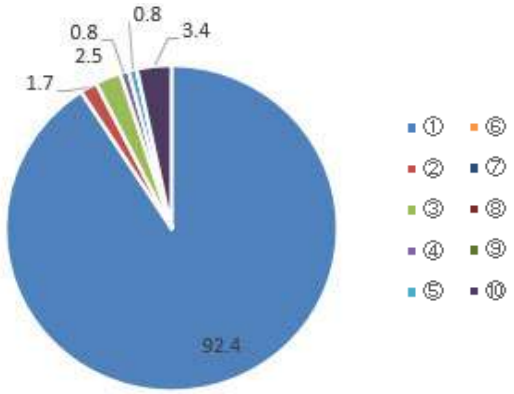
問14　大学行事（大学祭・運動会）に参加するとき、その動機は何ですか。（全回答数：118/157）

①有意義だから	22
②面白いから	49
③サークルで義務付けられているから	3
④友人ができるから	18
⑤在学中の義務だと思う	24
⑥授業や単位に関係するから	7
⑦友人に誘われるから	11
⑧暇だから	19
⑨なんとなく	36
⑩その他	9
・今しかできないと思うから ・勉強以外の思い出 ・学友会として盛り上げたい ・家族に大学生活を見てもらう ・仕方なく　・参加したくない ・運動会は不参加のため	



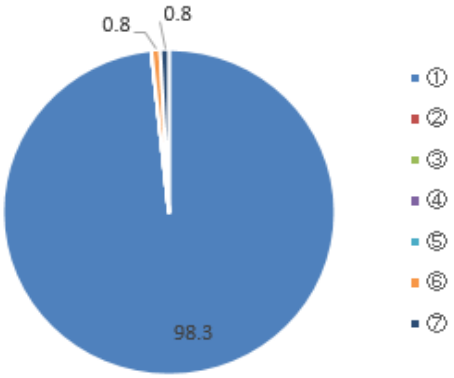
問15　悪質商法の被害に遭ったことはありますか。それはどのような被害でしたか。（全回答数：118/157）

①ない	109
②しつこい新聞勧誘	2
③架空・不当請求	3
④キャッチセールス	1
⑤アポイントセールス	1
⑥資格取得詐欺	0
⑦マルチ商法	0
⑧内職・モニター商法	0
⑨カード偽造・スキミング被害	0
⑩②～⑨以外の契約トラブル ・NHK　・詐欺	4



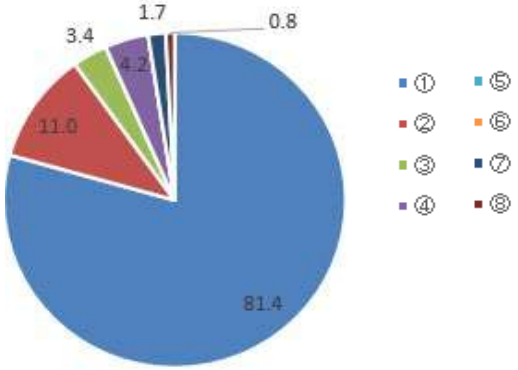
問16　SNS関連のトラブルに遭ったことはありますか。それはどのような被害でしたか。（全回答数：118/157）

①ない	116
②個人情報の流出	0
③ウイルスの侵入	0
④書きこみやメールでの誹謗中傷、いじめにあった	0
⑤書きこみやメールで執拗に誘われた	0
⑥ショッピングサイト等の思いがけない代金の請求や詐欺にあった	1
⑦その他 ・なりすまし	1



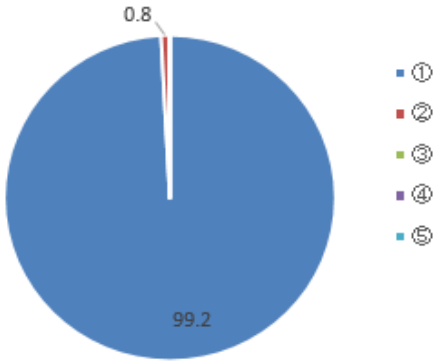
問17　その他質問になかった被害に遭ったことはありますか。それはどのような被害でしたか。（全回答数：118/157）

①ない	96
②宗教勧誘	13
③不審者（車）が徘徊	4
④いたずら電話や不審な電話・メールがきた	5
⑤器物破損を受けた	0
⑥違法薬物の使用を誘われた	0
⑦セクシャルハラスメント被害を受けた	2
⑧その他 ・痴漢	1



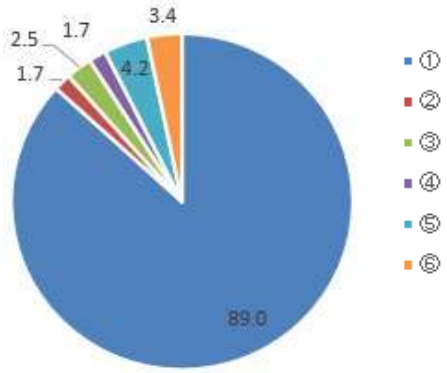
問18　人身事故の加害者になったことはありますか。それはどのような状況でしたか。（全回答数：118/157）

①ない	117
②自動車運転中	1
③二輪車（バイク・原付）運転中	0
④自転車運転中	0
⑤徒歩	0



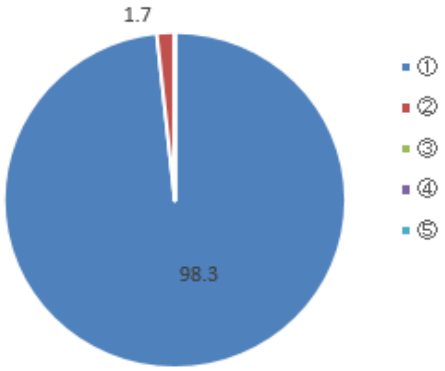
問19　人身事故の被害者になったことはありますか。それはどのような状況でしたか。（全回答数：118/157）

①ない	105
②自動車運転中	2
③自動車同乗中	3
④二輪車（バイク・原付）運転中	2
⑤自転車運転中	5
⑥徒歩	4



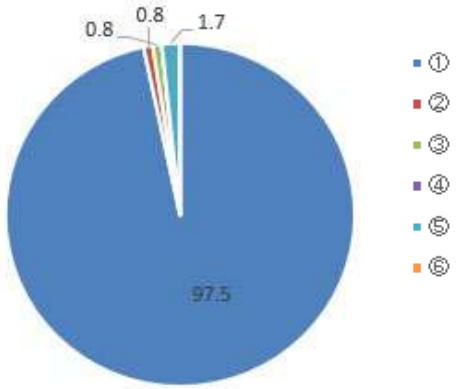
問20　物損事故の加害者になったことはありますか。それはどのような状況でしたか。（全回答数：118/157）

①ない	116
②自動車運転中	2
③二輪車（バイク・原付）運転中	0
④自転車運転中	0
⑤徒歩	0



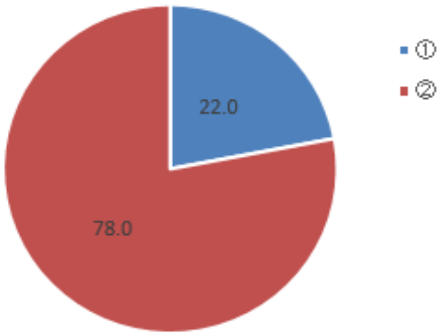
問21　物損事故の被害者になったことはありますか。それはどのような状況でしたか。（全回答数：118/157）

①ない	115
②自動車運転中	1
③自動車同乗中	1
④二輪車（バイク・原付）運転中	0
⑤自転車運転中	2
⑥徒歩	0



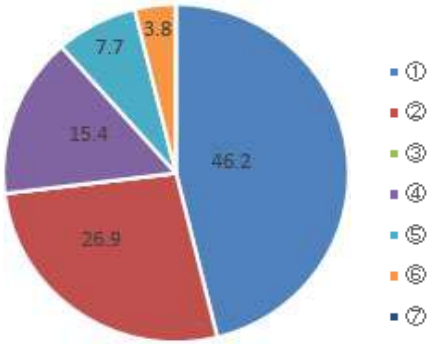
問22　あなたは昨年度(H30.4.1～H31.3.31)、何らかのボランティア活動に参加しましたか。（全回答数：118/157）

①ある	26
②ない	92



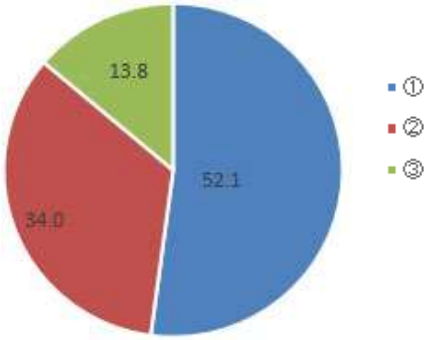
問23　ボランティア活動に参加したときの動機として、もっともあてはまるもの１つを選んでください。
（問22で「はい」と答えた学生…回答数：26）

①自ら進んで	12
②友人に誘われて	7
③先輩・後輩に誘われて	0
④教員に誘われて	4
⑤親に勧められて	2
⑥大学の掲示等をみて	1
⑦その他	0



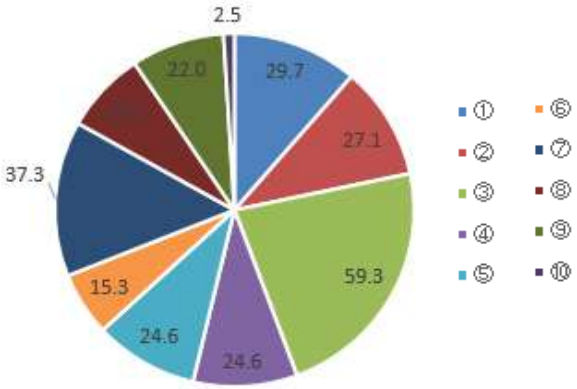
問24　ボランティア活動に関心がありますか。（全回答数：94）

①関心があり、今後在学中に活動に参加したい	49
②関心はあるが、在学中には活動に参加しない	32
③関心がない	13



問25　今後、ボランティア活動に参加するとしたら、どんな活動に参加したいと思いますか。（全回答数：118/157）

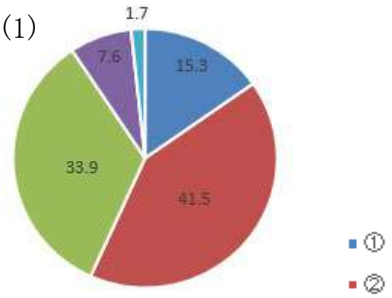
①高齢者に関するボランティア	35
②障害児・者に関するボランティア	32
③子ども・青少年に関するボランティア	70
④保健医療に関するボランティア	29
⑤自然環境保全に関するボランティア	29
⑥国際支援・協力に関するボランティア	18
⑦芸術・文化・スポーツ活動等に関するボランティア	44
⑧まちづくりに関するボランティア	23
⑨災害支援・防災に関するボランティア	26
⑩その他のボランティア ・保護活動　・教育系 ・参加したくない	3



問26　大学生活について、あなたの充実度を記入してください。（全回答数：118/157）
(1)学習面の充実感(学業への興味・意欲等)

①とても充実している	18
②まあまあ充実している	49
③ふつう	40
④あまり充実していない	9
⑤不満がある	2

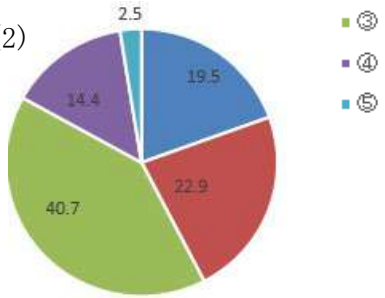
(1)



（2）部・サークル活動等、学習面以外の充実感

①とても充実している	23
②まあまあ充実している	27
③ふつう	48
④あまり充実していない	17
⑤不満がある	3

(2)



2019年度　学生生活アンケート　集計結果(施設利用についての設問)

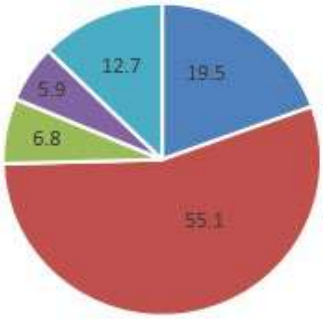
(1)～(12)　■① ■② ■③ ■④ ■⑤

問27　以下の施設・設備等についてあなたの満足度を記入してください。　※グラフ中の単位は%

(全回答数：118/157)

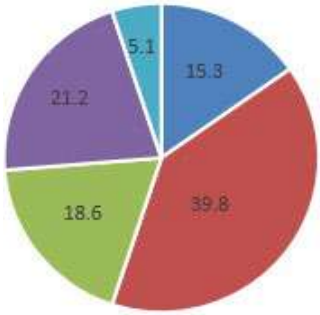
(1) 図書室

①とても満足している	23
②まあまあ満足している	65
③あまり満足ではない	8
④満足していない	7
⑤わからない	15



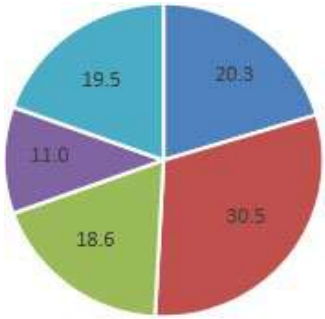
(2) 食堂

①とても満足している	18
②まあまあ満足している	47
③あまり満足ではない	22
④満足していない	25
⑤わからない	6



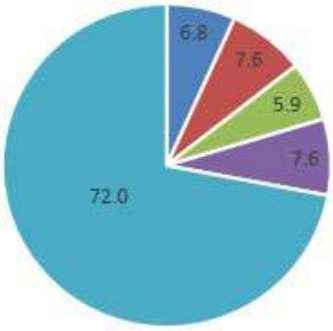
(3) 体育館

①とても満足している	24
②まあまあ満足している	36
③あまり満足ではない	22
④満足していない	13
⑤わからない	23



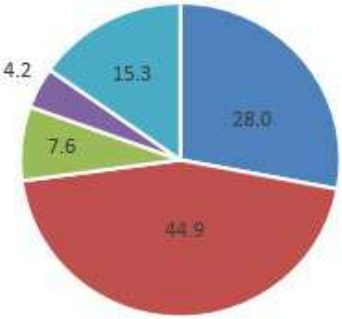
(4) テニスコート

①とても満足している	8
②まあまあ満足している	9
③あまり満足ではない	7
④満足していない	9
⑤わからない	85



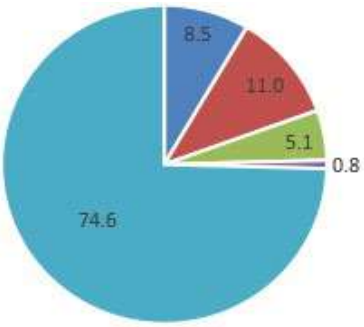
(5) 学生窓口

①とても満足している	33
②まあまあ満足している	53
③あまり満足ではない	9
④満足していない	5
⑤わからない	18



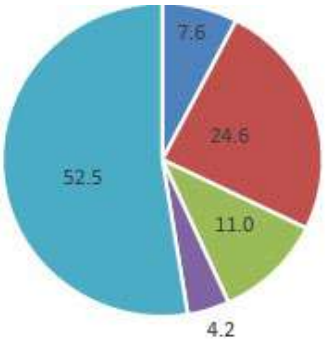
(6) 保健室

①とても満足している	10
②まあまあ満足している	13
③あまり満足ではない	6
④満足していない	1
⑤わからない	88



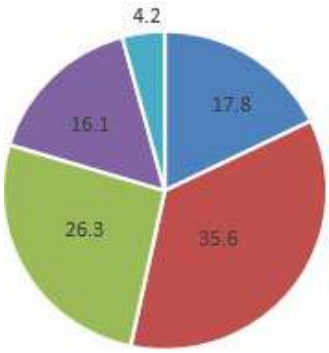
(7) 駐輪場

①とても満足している	9
②まあまあ満足している	29
③あまり満足ではない	13
④満足していない	5
⑤わからない	62



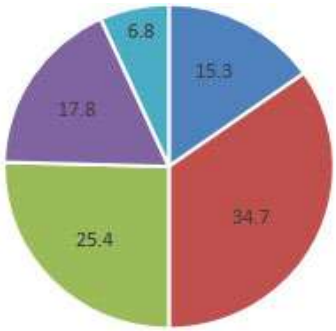
(8) ラウンジ

①とても満足している	21
②まあまあ満足している	42
③あまり満足ではない	31
④満足していない	19
⑤わからない	5



(9) 学生ロッカー

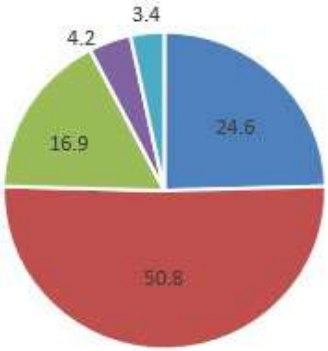
①とても満足している	18
②まあまあ満足している	41
③あまり満足ではない	30
④満足していない	21
⑤わからない	8



問27　以下の施設・設備等についてあなたの満足度を記入してください。　※グラフ中の単位は%
（全回答数：118/157）

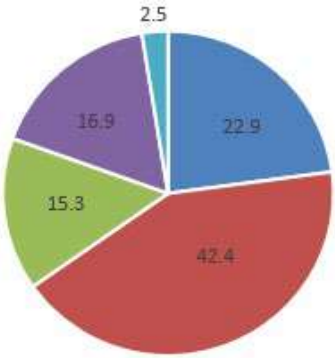
（10）教室（実習室含む）

①とても満足している	29
②まあまあ満足している	60
③あまり満足ではない	20
④満足していない	5
⑤わからない	4



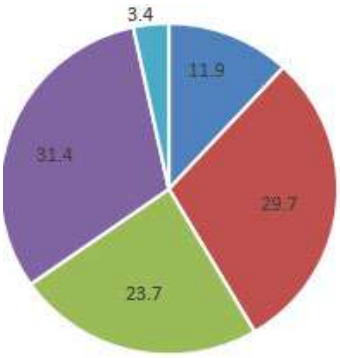
（11）情報処理室

①とても満足している	27
②まあまあ満足している	50
③あまり満足ではない	18
④満足していない	20
⑤わからない	3



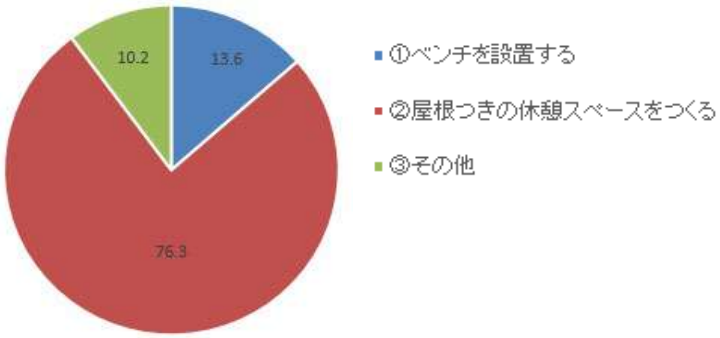
（12）Wi-Fi環境

①とても満足している	14
②まあまあ満足している	35
③あまり満足ではない	28
④満足していない	37
⑤わからない	4



問28　公開空地（例：大学と山王病院との間の芝生エリア）の使用について、あなたの意見に近いものを選んでください。また、選択肢以外のご意見があれば、「その他」の欄に記入してください。
注：通行者を妨げるキャッチボールなどの行為は禁止されています。（全回答数：118/157）

①ベンチを設置する	16
②屋根つきの休憩スペースをつくる	90
③その他	12



③その他の意見

- 何もなくていい／特になし
- 少し遊べるようにする
- 日陰になるような植樹
- 校舎等を作るなど、生徒数が増えてくることの対策をしてほしい
- 芝生にコンビニを作ってほしい
- 通行人の邪魔にならない範囲での遊びを許可して欲しい
- 運動できるようにしてほしい
- 雨の日、通りやすくしてほしい

2019年度　学生生活アンケート　集計結果(自由記述)

問29　　上記、各学内施設、物品で整備、保有してほしい等、ご意見がある方は、記入してください。

		学生意見
1 全体的な内容・学習面	1	全体的に施設が小さい。新入生が入ってきたら間違いなく場所が無くなる。キャンパス増築、体育館を広くして欲しい。
	2	ロッカーが狭い。
	3	藤崎駅から学校までの距離があるため、シャトルバスなど提供してもらいたい。
	4	チャイムが鳴ったり鳴らなかったりするのは何故でしょう？
	5	教室の冷房も、せめて福岡市の熱中症警報が出ている日は、７月であっても授業開始までにつけてほしい。
	6	前日にcampusplanで配信するのをやめてほしい。
	7	学校が休みの日にちや、授業の振替日など早めに伝えて欲しい。 急に言われると困る。
	8	配布資料は配布してもらわないと困る。
	9	講義資料は大学側から配布して欲しい。
	10	買った教科書はちゃんと授業で使って欲しい。でないとお金の無駄になります。
	11	水曜日は選択科目だけの日にしてほしい。
	12	401をOTの授業以外では自習したいので空けてほしい。
	13	重要な連絡がある際は、早めに連絡が欲しい。今回のwebclassのための機材の用意なども、連絡が急で困った。
	14	海外研修の実習先等を前もってはやく知らせて欲しい。 特にお金がかかることはなおさら。
	15	空きコマでキャッチボールできる近い場所などがほしい。
2 食堂・ラウンジ・売店等	1	学校外に行く時間がないので、学校内にコンビニか売店(食べ物、文具、両替、銀行ATMなど)がほしい。
	2	学食以外にもパンやおにぎりなどちょっとした食べ物が買える売店などがあるとありがたい。
	3	食堂を広くして欲しい。後輩が入ってきたら座れなくなりそう。
	4	食堂が狭くて入れない時がある。 ラウンジも同様。 現在は1年生と専門学生の合計2学年しかいないが、4学年になった場合、場所の拡大などは考えてあるのか。
	5	学食のメニューを増やしてほしい。
	6	最近ではメニューのワンパターンからか学食利用が減って来て遠ざかっているような気がする。
2 食堂・ラウンジ・売店等	7	学生食堂が余りにも小規模過ぎる。学生が少ない今年ですら席が足りず、メニューの少なさによる売り切れも多いため、来年から学生が満足に昼食を食堂で食べられるとは思えない。自販機で買える物も少なすぎる。 食堂の拡張、メニュー増量がすぐには困難であると思うので、せめて弁当やおにぎりの販売がないと厳しい。
	8	ラウンジとか狭いと思う。来年からどうするんですか？
	9	ラウンジのような休憩スペースをもっと広くして欲しい。席を増やして欲しい。また、食堂以外に売店などを設置してもらいたい。
	10	ラウンジでプリンやゼリーなどを売って欲しい。
	11	ラウンジの自販機にパンの種類が少ない、おにぎりの自販機欲しい。
	12	学内の自販機の軽食。甘いものばかりなので、しょっぱい系のパンが欲しい。
	13	自動販売機の金額が高い。（通常価格である）
	14	冷房の温度差が激しい。
3 情報処理室・ポータル	1	情報処理室での授業資料プリントを出すのにとても時間がかかる。
	2	Wi-fi環境を整備してほしい
	3	情報処理室PCの使い勝手が悪い。
	4	情報処理室、パソコンの起動の遅さと、用紙などの消耗品の管理。使おうと思っても、紙切れやエラーばかりで使い勝手が悪い。
	5	情報処理室PCの使い勝手が悪い。
	6	情報処理室の処理能力が低すぎるので、立ち上げるだけでもかなりの時間がかかる。
	7	ポータルサイトのPDFの性能UP(開けないときがある)
	8	WEB classで先生から資料がアップされたら見てすぐわかるような仕組みにしてほしい。キャンパスプランのお知らせに載るなど。
	9	コピー枚数の制限をなくすor緩和してほしい
4 体育館・テニスコート	1	大学で使用することができるグラウンドがあれば、より多くの行事、部活、サークルの活性化につながると思います。
	2	テニスコートを増やして欲しい。
	3	福岡市立図書館横のグラウンドの買収。
	4	体育館内の冷水機設置。
	5	部室が欲しい。
	6	体育館の使用条件が面倒くさい。 例:4時半からしか使えない
5 学友会	1	学友会専用教室の設置。
	2	学友会専用の掲示板の設置。

福岡国際医療福祉大学自己点検・評価委員会規程

福岡国際医療福祉大学自己点検・評価委員会規程

第１条　福岡国際医療福祉大学学則第２条及び第１６条に基づき、本学に自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

第２条　委員会は、本学における教育研究活動等の状況に関する自己点検・評価について、次の各号に掲げる事項を行う。

一　自己点検・評価の方針の策定に関すること。

二　自己点検・評価の実施に関すること。

三　自己点検・評価の報告書の作成及び公表に関すること。

四　その他自己点検・評価についての連絡調整に関すること。

第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

一　　学長

二　　副学長

三　　学部長

四　　副学部長

五　　学科長

六　　専攻科長

七　　教務委員長

八　　図書館長

九　　理事の中から理事長が指名した者

十　　事務部長

十一　その他学長が必要と認めた者

２　自己点検結果の評価を行う場合は、前項の委員のほか学外の有識者若干名を加えることができる。

第４条　委員の任期は１年とし、再任を妨げない。

２　前項の場合、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

３　委員は理事長が委嘱する。

第５条　委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

２　委員長は、委員会を召集し、その議長となる。

３　委員会に副委員長を置き、学長が指名する。

４　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

第６条　委員会に、必要に応じ小委員会を置くことができる。

２　小委員会に関する事項は、委員会において別に定める。

第７条　委員会の事務は総務課で処理する。

第８条　この規程の改正は、理事会の議決を経て行う。

附　則

この規程は、平成３１年４月１日から施行する。

2019年度自己点検・評価委員会委員名簿

2019年度自己点検・評価委員会委員名簿

<table>
<tr><th>役職</th><th colspan="2">所属</th><th>役職</th><th>氏名</th></tr>
<tr><td>委員長</td><td colspan="2"></td><td>学長</td><td>今泉　勉</td></tr>
<tr><td>副委員長</td><td colspan="2"></td><td>副学長</td><td>丸山　仁司</td></tr>
<tr><td rowspan="4"></td><td rowspan="3">医療学部</td><td>理学療法学科</td><td>学科長</td><td>柊　幸伸</td></tr>
<tr><td>作業療法学科</td><td>学科長</td><td>北島　栄二</td></tr>
<tr><td>視能訓練学科</td><td>学科長</td><td>吉冨　健志</td></tr>
<tr><td colspan="2">言語聴覚専攻科</td><td>専攻科長</td><td>平島　ユイ子</td></tr>
</table>

福岡国際医療福祉大学
2019 年度　自己点検・評価報告書

2020 年 3 月発行

〒814-0001　福岡県福岡市早良区百道浜 3 丁目 6-40

学校法人高木学園

福岡国際医療福祉大学（発行・編集）
ＴＥＬ：092－832－1200
ＦＡＸ：092－832－1167